Ⅵ.教育課程

(1)授業科目および授業単位数

区分	授業科目	単位数(時間数)					
		講義		実習		計	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	論理学	1	30			1	30
	統計学	1	15			1	15
	情報科学	1	30			1	30
	心理学	1	30			1	30
	教育学	1	30			1	30
	生活科学	1	30			1	30
	行動科学	1	30			1	30
	人間関係論	1	30			1	30
	家族論	1	30			1	30
	文学	1	30			1	30
	外国語	2	45			2	45
	保健体育	1	30			1	30
	小　計					13	360
専門基礎分野	解剖・生理学	4	120			4	120
	生化学	1	30			1	30
	栄養学	1	30			1	30
	薬理学	1	30			1	30
	微生物と感染	1	30			1	30
	病態学	6	180			6	180
	治療論	1	30			1	30
	保健医療論	2	30			2	30
	社会福祉	2	30			2	30
	関係法規	2	30			2	30
	小　計					21	540
専門分野Ⅰ	基礎看護学概論	2	45			2	45
	基礎看護技術	8	240			8	240
	基礎看護学実習			3	135	3	135
	小　計					13	420
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	1	30			1	30
	成人援助論	5	150			5	150
	老年看護学概論	1	30			1	30
	老年援助論	3	75			3	75
	小児看護学概論	1	30			1	30
	小児援助論	3	75			3	75
	母性看護学概論	1	30			1	30
	母性援助論	3	75			3	75
	精神看護概論	1	30			1	30
	精神援助論	3	75			3	75
	成人看護学実習			6	270	6	270
	老年看護学実習			4	180	4	180
	小児看護学実習			2	90	2	90
	母性看護学実習			2	90	2	90
	精神看護学実習			2	90	2	90
	小　計					38	1320
統合分野	在宅看護概論	1	15			1	15
	在宅援助論	3	75			3	75
	看護管理	1	15			1	15
	看護研究	1	30			1	30
	災害・国際看護	1	15			1	15
	臨床看護の実践	1	30			1	30
	在宅看護論実習			2	90	2	90
	統合実習			2	90	2	90
	小　計					12	360
合　計						97	3000

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
外国語Ⅱ	2 年次 前期	1 単位 15 時間	木村 杏子

科目目的・目標	① 医療現場で必要な異文化理解、英語表現、専門用語を身につけ、実践的に活用できるようにする。 ② 医療現場で患者やスタッフと英語でコミュニケーションをとる積極的態度を身につける。
授 業 概 要	「外国語Ⅰ」をふまえ、看護師に求められる基本的な医学英語知識の定着を目指す。 ① CD などを使ったディクテーションを行い、リスニング能力を向上させる。 ② 医学・看護の専門用語および異文化コミュニケーションを学ぶ。 ③ さまざまな医療の場面を想定したロールプレイやアクティビティ通し、楽しみながら英会話のスキルを高める。

授 業 計 画	回	内　　容	授業形態
	1 回	異文化ミュニケーション、医療英語の重要性と学習法	講義・演習
	2 回	困ったときの英語、診療科名、患者の基本情報	講義・演習
	3 回	病名・病歴の聴取	講義・演習
	4 回	英語での効果的な傾聴	講義・演習
	5 回	検査の指示・検査名、予防接種	講義・演習
	6 回	術前術後、日常看護、院内の案内、課題	講義・演習
	7 回	薬の種類と服用法、患者教育	講義・演習
	8 回	終講試験	

使用テキスト	「現場ですぐに役立つ！ 看護・医療スタッフの英語」（朝日出版社）
参　考　書	「語源図解 からだと健康の英単語」（講談社）　　＊参考書の購入は任意
評 価 方 法	積極的授業参加 10%、課題 10%、終講試験 80%
そ　の　他	毎回、リスニング、アクティビティを行いますので、積極的に参加してください。

分野（　専門基礎分野　）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
薬理学	2 年次 前期	1 単位 (30 時間)	藤井　康子

科目目的・目標	・薬理学の概念を知り、薬物の持つ特徴・作用機序・人体への影響を理解する。 ・看護師としての薬物療法の基本を理解する。
授　業　概　要	人体の仕組み（解剖）はたらき（生理）などの基礎医学から、疾患、原因（病態生理)、回復の方法（治療）などの臨床医学までを学習する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	薬理学総論（1）	講義
	2 回	薬理学総論（2）	講義
	3 回	抗感染症薬（1）	講義
	4 回	抗感染症薬（2）	講義
	5 回	抗がん薬･免疫抑制薬	講義
	6 回	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
	7 回	末梢神経・中枢神経作用薬（1）	講義
	8 回	末梢神経・中枢神経作用薬（2）	講義
	9 回	循環器作用薬（1）	講義
	10 回	循環器作用薬（2）	講義
	11 回	呼吸器・消化器・泌尿器系作用薬	講義
	12 回	糖尿病治療薬、ホルモン作用薬	講義
	13 回	ビタミン剤、皮膚科・眼科用薬	講義
	14 回	救急で使用する薬物、漢方製剤、輸液、添付文書	講義
	15 回	終講試験、まとめ	

使用テキスト	4 巻　臨床薬理学　デジタナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	終講試験
そ　の　他	

分野（　専門基礎分野　）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
病態学Ⅲ（骨・関節・支持組織）	2 年次 前期	1 単位 （30 時間のうち 15 時間）	神成文裕 織田徹也

科目目的・目標	目的：各系統の解剖生理を踏まえて、病態生理、診断、治療を理解する。
授　業　概　要	目標：骨・関節・支持組織の疾患の病態、症状、検査、治療を理解できる。

授　業　計　画

回	内　　容	授業形態
1 回	診断・検査と治療処置	講義
2 回	骨折・脱臼・捻挫	講義
3 回	先天性疾患・炎症性疾患・骨腫瘍	講義
4 回	神経・上肢・脊椎・下肢疾患	講義
5 回	ギプス・けん引	講義
6 回	レントゲン・手術	講義
7 回	まとめ	講義
8 回	終講試験	

使用テキスト	11 巻　運動機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX7 巻　運動器　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	終講試験 50 点満点
そ　の　他	

分野（　専門基礎分野　）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
病態学Ⅲ（脳神経）	2 年次 前期	1 単位 （30 時間のうち 15 時間）	猪野　裕通 渡邉　丈博

科目目的・目標	目的 : 人体を系統立てて学び、健康・疾病に関する観察力を強化するとともに社会保障制度や社会における資源の活用について理解する。
授　業　概　要	目標 : 各系統の解剖生理を踏まえて、病態生理、診断、治療を理解する。 脳神経疾患の病態、症状、検査、治療を理解できる。

授　業　計　画	回	内　　容	担　当	授業形態
	1 回	第 3 章　①意識障害	猪野	講義
	2 回	②高次脳機能障害	猪野	講義
	3 回	⑥頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア	猪野	講義
	4 回	第 4 章　全て	渡邉	講義
	5 回	第 5 章　A脳疾患	渡邉	講義
	6 回	D神経・筋疾患	渡邉	講義
	7 回	E脱髄・変性疾患	渡邉	講義
	8 回	終講試験		

使用テキスト	11 巻　脳・神経機能障害/感覚機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX5 巻　脳・神経　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	終講試験 50 点
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
病態学Ⅳ	2年次 前期	1単位 (30時間)	田邉　勇人

科目目的・目標	目的：各系統の解剖生理を踏まえて、病態生理、診断、治療を理解する。
授業概要	目標：免疫・内分泌・代謝系疾患、感覚系・血液・リンパ系、女性生殖器疾患の病態、症状、検査、治療を理解できる。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1 回	皮膚疾患	講義
2 回	耳鼻咽喉科疾患	講義
3 回	眼科疾患：白内障・緑内障	講義
4 回	女性生殖器の構造と機能	講義
5 回	子宮の疾患：子宮頚がん・子宮体がん・子宮筋腫	講義
6 回	卵巣疾患	講義
7 回	乳がん	講義
8 回	血液・血液型・輸血	講義
9 回	貧血	講義
10 回	出血性疾患・白血病	講義
11 回	内分泌器官とホルモン	講義
12 回	内分泌系関連疾患	講義
13 回	糖尿病	講義
14 回	肥満	講義
15 回	終講試験、まとめ	

使用テキスト	8巻　栄養代謝機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 9巻　造血機能障害/免疫機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 10巻脳神経機能障害/感覚器機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 12巻内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX4巻　血液・アレルギー膠原病/感染症　デジタルナーシンググラフィカ EX5巻　脳・神経　デジタルナーシンググラフィカ EX6巻眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚　デジタルナーシンググラフィカ EX8巻　腎/泌尿器/内分泌・代謝　デジタルナーシンググラフィカ EX9巻　女性生殖器
参　考　書	
評価方法	終講義試験　100点
その他	

分野（　専門基礎分野　）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
病態学Ⅴ(小児疾患)	2年次 前期	1単位 (30時間のうち15時間)	田邉　勇人

科目目的・目標	目的：専門分野の基礎となる、人体の構造と機能・疾患の成りたちと回復の促進・健康支援と社会保障について理解する。
授　業　概　要	目標：人体の解剖生理・発達段階の特徴をふまえて小児の病態生理・診断・治療を理解する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	出生前疾患　新生児疾患（ダウン・低出生体重児）	講義
	2 回	代謝・内分泌疾患、免疫アレルギー疾患（DM・喘息）	講義
	3 回	呼吸・循環器疾患（肺炎・ＭＣＬＳ・ファロー）	講義
	4 回	消化器・腎疾患（鎖肛または食道閉鎖・ネフローゼ）	講義
	5 回	血液疾患　悪性新生物（白血病）	講義
	6 回	神経疾患　骨筋肉　皮膚疾患 （てんかん・神経芽腫・先股脱・アトピー）	講義
	7 回	感染症　予防接種 （麻疹・風疹・ムンプス・水痘・百日咳・ＲＳ）	講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	33巻　小児の発達と看護　デジタルナーシンググラフィカ 34巻　小児看護技術　デジタルナーシンググラフィカ 35巻　小児の疾患と看護　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	終講試験　１００点満点（老年疾患５０点・小児疾患５０点）
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
病態学Ⅴ（老人疾患）	2 年次 前期	1 位 (30 時間のうち 15 時間)	田邉　勇人

科目目的・目標	各系統の解剖生理を踏まえて、病態生理・診断・治療を理解する。
授　業　概　要	疾患の中で高齢者に多くみられる認知症や白内障などの感覚器疾患、変形性関節症などの運動器疾患の特徴を学び、看護する上で留意すべき点を学習する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	認知症の分類、病態生理	講義
	2 回	認知症の症状、診断、検査、治療	講義
	3 回	認知症高齢者の看護	講義
	4 回	認知症高齢者の看護	講義
	5 回	高齢者の感覚器の疾患（白内障、緑内障）	講義
	6 回	高齢者の運動器の疾患（骨粗鬆症、変形性関節症、脊柱管狭窄症など）	講義
	7 回	高齢者の膠原病	講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	1 巻　高齢者の健康と障害　デジタルナーシンググラフィカ 32 巻　高齢者看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	単位認定試験 50 点
そ　の　他	

分野（　専門基礎分野　）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
治療論（手術・輸液） （麻酔・輸血） (放射線・化学療法・緩和療法)	2 年次 前期	単位 (15 時間)	田邉　勇人 佐藤　まゆみ

科目目的・目標	病気の本態を踏まえて主たる治療の方法と原則を理解する。 ・手術・輸液の概略を理解する ・麻酔、輸血の概略を理解する ・放射線療法・化学療法・緩和療法の方法と原則を理解する
授　業　概　要	・看護師に必要な手術・輸液に関する知識を習得する ・看護師に必要な麻酔、輸血に関する知識を習得する ・看護師に必要な放射線療法・化学療法・緩和療法に関する知識技術を習得する

授　業　計　画	回	内　　容	担当	授業形態
	1 回	手術療法の実際	田邊	講義
	2 回	輸液に関する一般的知識の習得	田邊	講義
	3 回	麻酔法とは	田邊	講義
	4 回	輸血療法の実際	田邊	講義
	5 回	緩和医療	佐藤	講義
	6 回	症状マネジメント	佐藤	講義
	7 回	化学療法、放射線治療	佐藤	講義
	8 回	終講試験		

使用テキスト	28 巻　周手術期看護　デジタルナーシンググラフィカ 30 巻　緩和ケア　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	終講試験（田邊先生 30 点分、佐藤先生 20 点分）
そ　の　他	

分野（専門基礎分野）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
治療論（理学療法）	2 年次 前期	1 単位 (30 時間のうち 15 時間)	佐藤　慎一郎 吉田　　一也

科目目的・目標	・病気の本態を踏まえて主たる治療の方法と原則を理解する。 ・医学における治療の１つとしての理学療法について学ぶ。
授業概要	①リハビリテーションと理学療法概論：定義･対象･障害構造モデル･目的・手段他 ②運動器系の障害とリハビリテーション看護：評価と治療 ③中枢神経系の障害とリハビリテーション看護：評価と治療

授業計画

回	内　　容	担当	授業形態
1 回	リハビリテーションの基礎知識	佐藤	講義
2 回	リハビリテーション看護とは	佐藤	講義
3 回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 総論	佐藤	講義
4 回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 各論	佐藤	講義
5 回	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 各論	佐藤	講義
6 回	運動器系の障害とリハビリテーション看護 総論	吉田	講義
7 回	運動器系の障害とリハビリテーション看護 各論	吉田	講義
8 回	終講試験		

使用テキスト	11 巻　運動機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 29 巻　リハビリテーション看護　デジタルナーシンググラフィカ EX 7 巻　運動器 その都度、配布を配布する予定です。
参考書	上田　敏：目でみるリハビリテーション医学　東京大学出版会社 上田　敏：目でみる脳卒中リハビリテーション　東京大学出版会社
評価方法	終講試験（50 点分）
その他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
保健医療論Ⅱ（公衆衛生）	2年次 前期	1単位 （15時間）	吉原　素子

科目目的・目標	目的：疾病予防、健康の保持増進に必要な公衆衛生に関する基礎的な知識を理解する。 目標：健康に影響するさまざまな要因を理解し、個人・集団に対する疾病予防・健康保持増進に関する看護を考えることができるようになる。
授　業　概　要	公衆衛生の理念・実際の公衆衛生活動、公衆衛生における看護を学習する。

授　業　計　画

回	内　　容	授業形態
1 回	公衆衛生のエッセンス、公衆衛生の活動対象	講義
2 回	環境と健康	講義
3 回	感染症とその予防対策	講義
4 回	公衆衛生のしくみ、集団の健康のとらえるための手法	講義
5 回	地域における公衆衛生の実践①（母子保健・成人保健）	講義
6 回	地域における公衆衛生の実践② （高齢者保健、精神保健、歯科保健、障害者・難病保健）	講義
7 回	学校と健康、職場と健康	講義
8 回	終講試験	

使用テキスト	15巻　公衆衛生　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	国民衛生の動向　2021/2022
評　価　方　法	終講試験
そ　の　他	

分野（　専門基礎分野　）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
社会福祉 I	2 年次 前期	1 単位 (15 時間)	奥山　和美

科目目的・目標	・社会保障の理念と制度を学び、医療と福祉の関連を理解する。
授　業　概　要	社会保障の考え方と制度を理解する。 社会保険と社会福祉を理解する。 国民生活基礎調査について 看護師国家試験についても検討する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	社会保障とは何か 社会保険　国民年金保険	講義
	2 回	医療保険	講義
	3 回	介護保険	講義
	4 回	労働者災害補償保険　雇用保険	講義
	5 回	社会福祉とは何か 子どもに対する福祉　高齢者に対する福祉	講義
	6 回	障害者に対する福祉 1	講義
	7 回	生活保護　障害者に対する福祉 2	講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	講　師　作　成　の　プ　リ　ン　ト
参　考　書	16 巻　社会福祉と社会保障　デジタルナーシンググラフィカ
評　価　方　法	終講試験の結果　受講態度
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
社会福祉Ⅱ	2 年次 前期	1 単位 (15 時間)	奥山　和美

科目目的・目標	・社会保障の理念と制度を学び、医療と福祉の関連を理解する。
授　業　概　要	社会保障の考え方と制度を理解する。 社会保険と社会福祉を理解する。 国民生活基礎調査について 看護師国家試験についても検討する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	国民生活基礎調査　国民健康栄養調査	講義
	2 回	年金保険の問題　医療保険の問題　総合問題 1	講義
	3 回	介護保険の問題　総合問題 2	講義
	4 回	労働者災害補償保険　雇用保険の問題　総合問題 3	講義
	5 回	子どもに対する福祉、高齢者に対する福祉の問題 総合問題 4	講義
	6 回	障害者に対する福祉の問題　総合問題 5	講義
	7 回	総合問題 6	講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	講　師　作　成　の　プ　リ　ン　ト
参　考　書	16 巻　社会福祉と社会保障　デジタルナーシンググラフィカ
評　価　方　法	終講試験の結果　受講態度
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
関係法規Ⅰ	2年次 前期	1 単位 (15 時間)	外山　美砂子

科目目的・目標	社会的規範としての法の意義や厚生行政の仕組みを理解する。 また看護職の職務執行のための看護関係法令を学ぶ。
授業概要	法は、私たちの生活に非常に密接に関わっており、それは看護の現場においても同じである。そこで、責任をもって職務を執行するために、守るべきルールを正確に理解し、看護師に必要不可欠な法律を中心に学ぶ。病院、医師、薬剤師等、医療を支える分野についてのルールを詳細に学ぶことを目的とする。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1 回	「法の概念」 法とは、法の種類、衛生法、厚生行政、その他	講義
2 回	「看護法」（～3回） 保健師助産師看護師法（定義、免許、業務、研修、義務、医療過誤）、看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義
3 回		講義
4 回	「医事法」（～5回） 医療法、医師法、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律、臓器移植法、その他	講義
5 回		講義
6 回	「保健衛生法」（～7回） 地域保健法、健康増進法、精神保健福祉法、 母子保健法、がん対策基本法、感染症法、その他	講義
7 回		講義
8回	終講試験	

使用テキスト	17巻　看護をめぐる法と制度　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	関連する新聞記事等
評価方法	終講試験　100点満点
そ　の　他	看護職の職務遂行のための看護関係法令を学び、看護行為・医療行為の法律的意義を理解する。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
関係法規Ⅱ	3 年次 前期	1 単位 (15 時間)	外山　美砂子

科目目的・目標	看護関係法令について学んだことを踏まえ、関連分野への知見を深める。 そして法律が保障する労働者の権利義務について理解する。
授　業　概　要	この授業では、保健衛生に関する重要な法律について知識を広め、保険・福祉の分野についても、近時の法の動きに注意しながら学ぶことを目標とする。そして労働者として与えられている権利等を知る。こうした種々の関連法規を理解することを目標とする。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	「薬務法」（～２回） 医薬品医療機器等法、麻薬及び向精神薬取締法、その他（「環境衛生法」を含む）	講義
	2 回		講義
	3 回	「社会保険法」：健康保険法、介護保険法、その他	講義
	4 回	「福祉法」（～５回） 社会福祉法、生活保護法、児童分野、高齢分野、障害分野、その他	講義
	5 回		講義
	6 回	「労働法と社会基盤整備」（～７回） 労働基準法、労働安全衛生法、育児介護休業法、その他 （「環境法」を含む）	講義
	7 回		講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	17 巻　看護をめぐる法と制度　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	関連する新聞記事等
評　価　方　法	終講試験　100 点満点
そ　の　他	看護職の職務遂行のための看護関係法令を学び、看護行為・医療行為の法律的意義を理解する。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
基礎看護技術Ⅲ	2 年次 前期	1 単位 30 時間	中安　ゆかり

科目目的・目標	目的：看護の概念を学び人間の理解、看護師の役割を認識し、看護実践のための基礎能力を養う 目標：1.看護を科学的にとらえ、看護を展開するために必要な基礎的な方法が習得できる。 2.看護における教育的活動の意義と指導技術を習得できる。
授　業　概　要	事例を通して、科学的思考、問題解決思考に基づき、対象にとっての必要な援助を提供するための一連のプロセスについて学ぶ。また、看護過程の展開には、クリティカルシンキングが必要であり、授業を通し自己のクリティカルシンキング能力を養う。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	看護過程とは、看護過程の考え方	講義
	2 回	事例紹介・情報の書き方・情報収集とアセスメント①	講義・GW
	3 回	情報収集とアセスメント②	演習・ＧW
	4 回	情報収集とアセスメント③	演習・ＧW
	5 回	情報収集とアセスメント④	演習・ＧW
	6 回	関連図・看護問題の抽出	講義・ＧW
	7 回	関連図、看護問題の抽出	発表・ＧW
	8 回	看護問題の優先度の決定・看護目標、具体策①	講義、GW
	9 回	看護目標、具体策②	発表、講義
	10 回	患者に必要な援助を考えよう！！（1 日の行動計画）	演習・ＧW
	11 回	援助を実施ししてみよう！！	演習・ＧW
	12 回	援助を評価してみよう！！	演習・ＧW
	13 回	看護における教育指導①	講義・ＧW
	14 回	看護における教育指導②	GW,　発表
	15 回	何でも質問コーナー	講義

使用テキスト	18 巻　看護学概論　デジタルナーシンググラフィカ 19 巻　基礎看護技術Ⅰ　デジタルナーシンググラフィカ
参　　考　　書	看護の基本となるもの　ヴァージニアヘンダーソン　日本看護協会出版会
評　価　方　法	最終提出物 70%・中間提出物 20%・グループワークの参加状況 10%
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
基礎看護技術Ⅷ	2年次 前期	1単位 (30時間)	竹島　裕子

科目目的・目標	目的：看護の概念を学び、人間の理解、看護師の役割を認識し、看護実践のための基礎能力を養う。 目標：健康障害をもつ対象を理解し、症状、状態に応じた看護を実践できる。
授業概要	健康障害をもつ対象者を理解し、その状況に応じた援助ができるように、知識、援助方法を理解する。安全かつ安楽に実施できる技術・知識・態度の習得をめざす。演習では実際に医療現場で使用している医療物品を用いて、シミュレーションを実施し、技術の習得をはかる。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1 回	救急時の対象者への看護　救命救急処置、止血法①	講義・GW
2 回	救急時の対象者への看護　救命救急処置、止血法②	講義・演習
3 回	心肺蘇生法①	講義・演習
4 回	心肺蘇生法②	講義・演習
5 回	安楽に関連する症状を示す対象者への看護　①	講義・GW
6 回	安楽に関連する症状を示す対象への看護　②	講義・GW
7 回	罨　法	演習
8 回	循環に関連する症状を示す対象への看護①	講義・GW
9 回	循環に関連する症状を示す対象への看護②	講義・GW
10 回	呼吸に関連する症状を示す対象への看護①	講義・GW
11 回	呼吸に関連する症状を示す対象への看護②	講義・GW
12 回	酸素吸入・排痰援助（吸引・ドレナージ）	演習
13 回	外傷に関連する症状を示す対象者への看護	講義・GW
14 回	包帯法	演習
15 回	終講試験	

使用テキスト	18巻　看護学概論　デジタルナーシンググラフィカ 19巻　基礎看護技術Ⅰ　デジタルナーシンググラフィカ 20巻　基礎看護技術Ⅱ　デジタルナーシンググラフィカ 基礎・臨床　看護技術　医学書院 看護がみえる　vol. 2　臨床看護技術　メディックメディア
参考書	
評価方法	レポート提出 40%　　終講試験 60%
その他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
基礎看護技術Ⅷ	2年次 前期	1単位 (30時間)	竹島　裕子

科目目的・目標	目的：看護の概念を学び、人間の理解、看護師の役割を認識し、看護実践のための基礎能力を養う。 目標：健康障害をもつ対象を理解し、症状、状態に応じた看護を実践できる。
授業概要	健康障害をもつ対象者を理解し、その状況に応じた援助ができるように、知識、援助方法を理解する。安全かつ安楽に実施できる技術・知識・態度の習得をめざす。演習では実際に医療現場で使用している医療物品を用いて、シミュレーションを実施し、技術の習得をはかる。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1 回	安楽かつ快適さを確保する技術	講義
2 回	呼吸を楽にする技術①	講義・GW
3 回	呼吸を楽にする技術②	講義・GW
4 回	酸素吸入・排痰援助（吸引・ドレナージ）	演習
5 回	酸素吸入・排痰援助（吸引・ドレナージ）	演習
6 回	体温を調整する技術	講義・GW
7 回	罨法	演習
8 回	皮膚創傷を管理する技術①	講義
9 回	包帯法	演習
10 回	皮膚創傷を管理する技術②	講義・GW
11 回	救急時の対象者への看護　救命救急処置、止血法①	講義
12 回	救急時の対象者への看護　救命救急処置、止血法②	講義
13 回	心肺蘇生法①	講義・演習
14 回	心肺蘇生法②	講義・演習
15 回	終講試験	

使用テキスト	ナーシンググラフィカ　基礎看護技術Ⅱ看護のための援助技術　メディカ出版
参考書	看護がみえる　vol. 2　臨床看護技術　メディックメディア
評価方法	レポート提出 40%　　終講試験 60%
その他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅰ	2年 前期	1単位 30時間	折田　誠子

科目目的・目標	目的：成人期において、生命兆候が著しく変化し、緊急に治療を必要とする対象への看護の役割について学ぶ。 目標：1．成人の急性期の状況に応じた援助方法について理解を深める 2．急性期・手術療法が患者や家族に与える影響や看護の役割を理解する 3．急性期にある患者・家族に対して、配慮・心配りを考える。
授業概要	成人期にある患者の身体的・精神的・社会的な特徴を統合し、急性期・周手術における患者の生体反応・身体機能悪化の早期発見と回復の促進を学ぶ。患者は生命の危機や心身の苦痛状態にさらされる状況にあり、患者が体験するであろう心身の変化や様々な問題を予測し、社会生活への適応、生活の再構築に向けた順調な経過がたどれるよう患者の看護に必要な基礎知識と技術について学習する。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1回	健康危機状況にある患者の看護の役割	講義
2回	周手術期にある患者の看護：術前の看護	講義
3回	周手術期にある患者の看護：術中の看護	講義
4回	周手術期にある患者の看護：術後の看護	講義
5回	術後合併症予防と生命維持および回復への援助①	講義
6回	術後合併症予防と生命維持および回復への援助②	講義
7回	ICU・CCUの看護	講義
8回	循環器障害患者の看護①	講義
9回	循環器障害患者の看護②	講義
10回	呼吸器障害患者の看護①	講義
11回	呼吸器障害患者の看護②	講義
12回	消化器疾患患者の看護①	講義
13回	消化器疾患患者の看護②	講義
14回	消化器疾患患者の看護③	講義
15回	終講試験	

使用テキスト	25巻　成人看護概論　デジタルナーシンググラフィカ 26巻　健康危機状況/セルフケアの再獲得　デジタルナーシンググラフィカ 7巻　呼吸機能障害/循環機能障害　　デジタルナーシンググラフィカ 8巻　栄養代謝機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX1巻　呼吸器　デジタルナーシンググラフィカ EX2巻　循環器　デジタルナーシンググラフィカ EX3巻　消化器　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評価方法	課題（2割）終講試験（8割）
そ　の　他	特になし

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅱ	2 年次 後期	1 単位 30 時間	黒川　由美子 古村

科目目的・目標	目的：回復期にある成人の健康問題と生活の特性を理解し、障がいを持つ患者への療養生活支援についての知識と技術を修得する。 目標：１．機能障がいをもつ人が社会復帰に向けて自立するための看護を理解する ２．機能障がいによって生活調整を必要とする人への看護の方法を理解する
授　業　概　要	予期せぬ状況下での突然の発症により、何らかの障がいが予想される状態にあり、リハビリテーションを必要とする患者と家族を理解する。また、障がいに伴うボディイメージの変容への支援を学ぶ。そして、疾病や機能障がいに応じた、その人らしい生活の再構築を支援する看護を学ぶ。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	リハビリテーション（回復期）の概念	講義
	2 回	回復期にある患者とその看護 セルフケア支援とは	講義
	3 回	運動機能障がいのある患者の看護①	講義
	4 回	運動機能障がいのある患者の看護②	講義
	5 回	乳房切除術を受ける患者の看護①	講義
	6 回	乳房切除術を受ける患者の看護②	講義
	7 回	ストーマ造設する患者の看護①	講義・演習
	8 回	ストーマ造設する患者の看護②	講義
	9 回	視覚障がいのある患者の看護①	講義
	10 回	視覚障がいのある患者の看護②	講義
	11 回	脳血管障がいのある患者の看護①	講義
	12 回	脳血管障がいのある患者の看護②	講義
	13 回	脳血管障がいのある患者の看護③	講義
	14 回	脳血管障がいのある患者の看護④	講義
	15 回	終講試験・まとめ	

使用テキスト	26 巻　生命危機状況/セルフケアの再獲得　デジタルナーシンググラフィカ 10 巻　脳・神経機能障害/感覚機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 11 巻　運動機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 12 巻　内部環境調整機能障害/性・生殖機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX3 巻　消化器　デジタルナーシンググラフィカ EX6 巻　眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚　デジタルナーシンググラフィカ EX7 巻　運動器　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	出席状況　・課題・　終講試験
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅲ	2 年次 後期	1 単位 30 時間	折田　誠子

科目目的・目標	目標：１．慢性的に経過する疾患の原因を理解し、疾病予防のための指導内容を理解する ２．慢性疾患と共存する人への生活調整を促し、セルフケア確立の看護を 理解する
授　業　概　要	生涯にわたり、健康障害のセルフコントロールを必要とする患者と家族を理解し、疾病と共に生活していくことを支援する看護を学ぶ

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	慢性期と慢性期看護の概念	講義
	2 回	慢性期にある人の特徴と理解 慢性期にある患者の疾病の受容過程	講義
	3 回	糖代謝機能障害をもつ患者の看護①	講義
	4 回	糖代謝機能障害をもつ患者の看護②	講義
	5 回	糖代謝機能障害をもつ患者の看護③	講義
	6 回	糖代謝機能障害をもつ患者の看護④ 演習：自己血糖測定・インスリン注射・フットケア	講義・演習
	7 回	腎機能障害をもつ患者の看護①	演習
	8 回	腎機能障害をもつ患者の看護②	講義
	9 回	腎機能障害をもつ患者の看護③	講義
	10 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護①	講義
	11 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護②	講義
	12 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護③	講義
	13 回	内分泌機能障害をもつ患者の看護①	講義
	14 回	内分泌機能障害をもつ患者の看護②	講義
	15 回	終講試験・まとめ	試験

使用テキスト	27 巻　セルフマネジメント　デジタルナーシンググラフィカ 7 巻　呼吸機能障害/循環器機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 12 巻　内部環境調整機能障害/性・生殖機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX 1 巻　呼吸器　デジタルナーシンググラフィカ EX8 巻　腎/泌尿器/内分泌・代謝　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学①　成人看護学総論　医学書院
評　価　方　法	課題（2 割）・終講試験（8 割）
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅳ	2年次 後期	1単位 30時間	折田・藤原・湯之原

科目目的・目標	目的：終末期にある成人・家族の特徴を理解し、身体的・精神的苦痛の緩和にむけた看護を学ぶ 目標：1．治療困難を呈し、緩和ケアを必要とする人への心身の安楽を提供する看護を理解する 2．終末期にある人、家族への看護を理解する
授業概要	人生の最期を迎える終末期にある患者と家族を理解し、状況に応じた看護を学ぶ。また、自己の死生観を深める機会にする。 がんの予防から治療、がんに伴う苦痛、患者・家族の苦痛を和らげる緩和ケアとがん看護の役割を学ぶ。また、難病をもつ患者の特徴とその看護を学ぶ。

授業計画

回	内容	授業形態
1回	終末期看護の概念	講義
2回	終末期にある対象の特徴と看護	講義
3回	心理・社会・霊的な特徴とその看護	講義
4回	終末期にある対象の家族の特徴と看護	講義
5回	がん看護	講義
6回	化学療法と看護	講義
7回	がんに伴う苦痛と看護師の役割	講義
8回	心理・社会的苦痛への看護	講義
9回	栄養代謝機能障害がある患者の看護①	講義
10回	栄養代謝機能障害がある患者の看護②	講義
11回	造血機能障害がある患者の看護①	講義
12回	造血機能障害のある患者の看護②	講義
13回	難病を持つ患者の看護①ステロイド療法時の看護	講義
14回	臨死期の援助	講義
15回	終講試験・まとめ	試験

使用テキスト	30巻　緩和ケア　デジタルナーシンググラフィカ 8巻　栄養代謝機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 9巻　造血機能障害/免疫機能障害　デジタルナーシンググラフィカ 10巻　脳・神経機能障害/感覚機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX3巻　消化器　デジタルナーシンググラフィカ EX4巻　血液/アレルギー・膠原病/感染症　デジタルナーシンググラフィカ EX5巻　脳神経　デジタルナーシンググラフィカ
参考書	
評価方法	終講試験
その他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅴ	2年 後期	1単位 30時間	森谷　友美

科目目的・目標	目的：成人期・周手術期の特徴を踏まえ、健康段階に応じた看護過程の展開ができる。 目標：1．成人期の特徴を踏まえた看護過程を展開できる。 2．疾病の特徴と周手術期の経過に応じた看護過程を習得できる。
授業概要	大腸癌で低位前方術を行う患者の事例から、看護過程を展開する。疾病・手術療法・周手術期の経過の理解のもとに、急性期にある患者のセルフケアを支えるための具体的な看護について事例を用いて展開する。グループワーク（GW）を通してメンバー同士協力して意見交換を行い、関連図・計画立案を行う。講義を通し、患者やその家族の健康問題を総合的に考え、看護師として専門的援助を行うために、個別性についてじっくり考察することの必要性を学ぶ。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1回	看護過程の構成要素の復習 患者の病態を踏まえた情報収集整理	講義・個人ワーク
2回	術前情報の整理・解釈・分析・統合①	講義・個人ワーク
3回	術前情報の整理・解釈・分析・統合②	GW
4回	術前アセスメントの発表	GW・発表
5回	術前関連図作成	講義・GW
6回	関連図発表・看護上の問題点および優先順位の選定	GW・発表
7回	術前看護計画立案	講義・個人ワーク
8回	術前看護計画評価	講義・個人ワーク
9回	術中・術直後・術後5日目の情報整理・分析・解釈・統合①	講義・
10回	術中・術直後・術後5日目の情報整理・分析・解釈・統合②	講義・
11回	術後関連図作成	講義・GW
12回	術後看護計画立案	講義・個人ワーク
13回	術後看護計画立案	講義・個人ワーク
14回	成人　周手術期　看護過程のまとめ	講義
15回	終講試験	試験

使用テキスト	28巻　周手術期看護　デジタルナーシンググラフィカ 8巻　栄養代謝機能障害　デジタルナーシンググラフィカ EX3巻　消化器　デジタルナーシンググラフィカ
参考書	講義にて紹介
評価方法	記録物・グループワークを行う場合は、その参加状況も評価を行う。
その他	・事前学習は精力的に取り組むこと。 ・提出物、時間厳守 ・GWでは、メンバー間で積極的な意見交換と協力に期待する。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
老年援助論　I	2年次 前期	1単位 (30時間)	山田　良子

科目目的・目標	目的：老年期の日常生活機能を整える看護活動が理解できる。 目標：1.高齢者に起こってくる身体的・精神的・社会的変化とその特徴をとらえ高齢者の日常生活にもたらす影響についてアセスメントができる。 2.加齢に伴う変化の日常生活への影響をふまえ高齢者の健康を維持・増進するための援助を理解できる。
授業概要	老年期にある対象者の特徴をふまえ、加齢によっておこる高齢者の特徴を理解し、機能障害を持ちながら生活する高齢者への看護方法を学ぶ。

授業計画	回	内　　容	授業形態
	1回	高齢者のヘルスアセスメント	講義
	2回	高齢者疑似体験	演習・GW
	3回	高齢者への生活援助のあり方について	GW
	4回	高齢者への生活援助のあり方について　（発表）	GW・講義
	5回	高齢者の転倒転落　転倒リスクのアセスメントと看護	講義
	6回	高齢者の廃用症候群を予防する看護	講義
	7回	高齢者の栄養状態を保つ看護	講義
	8回	高齢者の食生活への看護	講義
	9回	高齢者の排泄障害への看護	講義
	10回	高齢者の清潔と整容に対する看護	講義
	11回	高齢者に対する排泄の援助（おむつ交換）	演習（実習室）
	12回	高齢者の生活リズムを整える看護	講義
	13回	高齢者とのコミュニケーション	講義・演習
	14回	高齢者のセクシュアリティ	講義・演習
	15回	終講試験・まとめ	試験

使用テキスト	31巻　高齢者の健康と障害　デジタルナーシンググラフィカ 32巻　高齢者看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ
参考書	
評価方法	終講試験80%・レポート20%
その他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
老年援助論Ⅱ	2 年次 後期	1 単位 (30 時間)	山内　朝江

科目目的・目標	目的　加齢現象や疾病によっておこる高齢者の健康障害の特徴を理解し、健康障害を持ちながら生活する高齢者とその家族への看護の方法を学ぶ。 目標１．高齢者疾患の特性を踏まえた看護実践の知識を修得する。 ２．終末期医療と意思決定などへの支援について学ぶ。
授　業　概　要	高齢者が罹患しやすい疾患について理解し、看護する上で留意すべき点を学習する。また、健やかに老い、穏やかな死を迎える看護について学ぶ。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	症候のアセスメントと看護（発熱、痛み）	講義
	2 回	症候のアセスメントと看護（掻痒、脱水）	講義
	3 回	症候のアセスメントと看護（嘔吐、浮腫、倦怠感）	講義
	4 回	脳血管障害のある高齢者の看護	講義
	5 回	循環器疾患（虚血性心疾患、心不全など）のある高齢者の看護	講義
	6 回	呼吸器疾患（肺炎、肺結核、COPD)のある高齢者の看護	講義
	7 回	パーキンソン病、パーキンソン症候群のある高齢者の看護	講義
	8 回	運動器疾患のある高齢者の看護（骨粗鬆症、骨折、人工膝関節置換術を受ける高齢者を含む)	講義
	9 回	うつ、せん妄のある高齢者の看護	講義
	10 回	認知症のある高齢者の看護	講義
	11 回	検査、手術、入院治療を受ける高齢者の看護	講義
	12 回	薬物療法を受ける高齢者の看護	講義
	13 回	エンドオブライフケア	講義
	14 回	高齢者のリスクマネジメント	講義
	15 回	試験・まとめ	試験

使用テキスト	31 巻　高齢者の健康と障害　デジタルナーシンググラフィカ 32 巻　高齢者看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	初回講義で通知
そ　の　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
老年援助論　Ⅲ	2年次 後期	1単位 (15時間)	山　田　良　子

科目目的・目標	目的：老年期にある対象を生活者としてとらえ、個人を尊重し、QOLの実現に向けた支援の在り方を学ぶ 目標：老年期にある対象者の特徴と生活を捉えて看護過程を展開し、必要な看護を理解することができる。
授　業　概　要	高齢者の健康障害は、疾病に罹患しているだけでなく老いが病気と関係していることを理解する必要がある。疾患を抱えながら、その人らしく生活をしていくための視点を持ち、高齢者の強みを見出す看護について理解する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	老年看護過程　展開の進め方 記録用紙説明 事例提示　病態の理解　情報収集	講義 個人W
	2 回	情報の分類 （事例から情報を抽出し、整理する）	講義 個人W
	3 回	情報をもとにアセスメント（1）	講義
	4 回	情報をもとにアセスメント（2）	講義
	5 回	情報をもとにアセスメント（3）	講義
	6 回	関連図作成	講義 個人W
	7 回	看護計画立案 長期目標・短期目標・具体策	講義
	8 回	終講試験	試験

使用テキスト	31巻　高齢者の健康と障害　デジタルナーシンググラフィカ 32巻　高齢者看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	
評　価　方　法	看護過程記録　100点

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
小児援助論Ⅰ	2年次 前期	1単位 (30時間)	大出　幸子 松本　朋子

科目目的・目標	目的：小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達に応じた擁護と疾病・課題をもつ 児とその家族に対する看護を学ぶ。 目標：主な状況における小児への看護が理解でき、必要な技術を習得できる
授業概要	小児医療の高度化・多様化に伴い、小児医療の場では、広範囲に及ぶ専門的な看護技術を、子どもの発達段階に応じて、あるいは子どもや家族の置かれている状況に応じて駆使することができる看護実践能力が求められている。子どもの発達を踏まえ、子どもに安全で安楽なケアを提供していくために科学的な根拠を学び、小児看護実践力を育成する基本的技術を学習していく。

回	内　　容	授業形態
1 回	病気と障害を持つ小児と家族の看護（病気の認識・ストレス　）	講義
2 回	小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（コミュニケーション）	講義
3 回	小児における疾病の経過と看護（慢性期）	講義
4 回	小児における疾病の経過と看護（終末期）	講義
5 回	小児における疾病の経過と看護（手術期）（処置、検査時）	講義
6 回	小児における疾病の経過と看護（在宅・災害）	講義
7 回	小児における疾病の経過と看護(外来)(身体アセスメント)	講義
8 回	小児のアセスメント（バイタルサイン測定、諸計測）	講義
9 回	検査・処置を受ける小児の看護（吸入・吸引・抑制・与薬・点滴）	講義
10 回	**急性症状を示す看護（発疹・発熱・脱水・下痢・嘔吐・便秘・痙攣）**	**講義**
11 回	**急性症状を示す看護（不機嫌・啼泣・疼痛・呼吸困難・ショック）**	**講義**
12 回	**事故・外傷と看護**	**講義**
13 回	**生命徴候が危険な状況のアセスメント　救命処置について**	**講義**
14 回	小児看護技術	演習
15 回	単位認定試験・まとめ	

使用テキスト	33巻　小児の発達と看護　デジタルナーシンググラフィカ 34巻　小児看護技術　デジタルナーシンググラフィカ 35巻　小児の疾患と看護　デジタルナーシンググラフィカ
参考書	小児看護学　小児看護技術　メディカ出版
評価方法	課題提出・単位認定試験
その他	講義内容によりＤＶＤやビデオを視聴し学習する。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
小児援助論Ⅱ	2年次　後期	1単位	大出幸子

実務経験のある教員等による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患児とその家族を理解し、対象に寄り添い、小児看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。
科目目的・目標	目的：健康障害や健康問題を持つ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階や健康状態、子どもと家族が置かれている様々な状況に合わせた援助を実践するために、親子の療養行動やセルフケア能力を促進する援助について学習する。 目標：病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護を理解することができる。 ・小児期に特有の健康障害を病期別に捉え、各病期にある子どもと家族への看護の特徴を理解する。
授　業　概　要	健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもと家族を一つの単位として捉えることにより、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について、小児看護を創造することができる。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1回	慢性的な疾患・障害がある子どもと家族の看護（食物アレルギー）	講　義
	2回	急性期にある子どもと家族の看護（ファロー四徴症）	講　義
	3回	慢性期にある子どもと家族の看護（ネフローゼ症候群）	講　義
	4回	慢性期な疾患にある子どもと家族の看護（てんかん）	講　義
	5回	痛みのある子どもと家族の看護（白血病）	講　義
	6回	慢性的な疾患にある子どもと家族の看護（Ⅰ型糖尿病）	講　義
	7回	慢性的な疾患にある子どもと家族の看護（小児がん）	講　義
	8回	ハイリスク新生児と家族の看護（低出生体重時）	講　義
	9回	先天性疾患をもつ子どもと家族の看護（ダウン症候群）	講　義
	10回	発達に問題がある子どもと家族の看護（重症心身障害児）	講　義
	11回	呼吸器に疾患を持つ子どもと家族の看護（喘息）	講　義
	12回	後天的な疾患を持つ子どもと家族の看護（川崎病）	講　義
	13回	子どもに多い感染症と看護	講　義
	14回	予防接種	講　義
	15回	単位認定試験・まとめ	

使用テキスト	33巻　小児の発達と看護　デジタルナーシンググラフィカ 34巻　小児看護技術　デジタルナーシンググラフィカ 35巻　小児の疾患と看護　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	子どもの病気の地図帳　　講談社
評　価　方　法	課題提出・単位認定試験
そ　の　他	講義内容によりＤＶＤを視聴し学習する

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
小児看護過程	2年次　後期	1単位	大出幸子

科目目的・目標	目的：小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達の応じた養護と疾患・課題を持つ子どもと家族に対する看護を学ぶ。 目標：健康障害を持つ子どもの看護過程が展開できる。
授　業　概　要	子どもの特徴や成長発達に応じた養護と健康問題を持つ子どもの基本的看護を基盤とし、看護過程の展開する方法を学ぶ。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	疾患を持つ患児の看護過程　概要　進め方　記録用紙の説明　事例説明	講　義
	2 回	看護過程　情報整理、アセスメントの実際	講　義
	3 回	看護過程　情報整理、アセスメントの実際	講　義
	4 回	看護過程　アセスメントの確認	講　義
	5回	看護過程　関連図の作成	講　義
	6 回	看護過程　関連図の妥当性と整合性の確認、問題点の抽出	講　義
	7 回	看護過程　看護計画立案　長期・短期目標・具体策	講　義
	8回	単位認定試験・まとめ	講　義
	9回		講　義
	10回		講　義
	11回		講　義
	12回		講　義
	13回		講　義
	14回		講　義
	15回		

使用テキスト	33巻　小児の発達と看護　デジタルナーシンググラフィカ 34巻　小児看護技術　デジタルナーシンググラフィカ 35巻　小児の疾患と看護　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	子どもの病気の地図帳　　出版
評　価　方　法	課題提出・単位認定試験
そ　の　他	講義内容によりＤＶＤを視聴し学習する

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
母性援助論Ⅰ	2年次 前期	1単位 30時間	城所　木綿子 加藤　てるみ

科目目的・目標	目的：母性各期における対象を総合的に理解し、その対象がもつ健康課題と看護を学ぶ 目標：妊娠・分娩期にある母子とその家族に対する看護実践を行うための基礎的知識について理解できる
授業概要	母性看護学概論で学習した知識を基礎として、妊娠、分娩、産褥、新生児に焦点を当てる。正常な経過と、子どもを産み育てる過程を中心に、母子およびその家族に対する援助を学ぶ。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1 回	様々な妊娠の成立と胎児の成長発達	講義
2 回	妊娠期の身体的変化	講義
3 回	妊婦の心理・社会的変化	講義
4 回	妊婦と胎児のアセスメント	講義
5 回	妊婦と家族の看護	講義
6 回	分娩の要素	講義
7 回	分娩の経過	講義
8 回	産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦の看護	講義
9 回	分娩期の援助	講義
10 回	産褥期の経過・アセスメント	講義
11 回	褥婦とその家族の看護、施設退院後の看護	講義
12 回	新生児の生理	講義
13 回	新生児のアセスメント	講義
14 回	新生児の看護	講義
15 回	終講試験、まとめ	試験

使用テキスト	37巻　母性看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ 38巻　母性看護技術　デジタルナーシンググラフィカ
参考書	EX9巻　女性生殖器　デジタルナーシンググラフィカ
評価方法	終講試験90%・課題レポート10%
その他	母性看護論実習の事前学習課題となるため、講義資料の資料整理は怠らないこと。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
母性援助論Ⅱ	2 年次 後期	1 単位 (30 時間)	中里　まゆみ 加藤　てるみ

実務経験のある教員等による授業科目	助産師として病院に 18 年間従事。実務経験を活かし、母性看護の対象を理解し、対象を多角的な視点で捉える能力を養う授業を行う。
科目目的・目標	目的：妊娠・分娩・産褥・新生児期における対象の身体的・心理社会的異常、もしくは異常の予測がある場合について理解し、母児及び家族へのケアについて学ぶ。 目標：ハイリスクな状況にある母子への看護が理解でき、必要な看護技術を習得できる。
授　業　概　要	母性援助論Ⅰで学習した正常な経過を基に、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の異常な経過と看護について学習する。妊婦、産婦、褥婦、新生児に必要な観察技術と援助技術について習得する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	ハイリスク妊娠とは、妊娠期の感染症	講義
	2 回	妊娠疾患、持続期間の異常	講義
	3 回	ハイリスク妊婦の看護	講義
	4 回	産道・娩出力・胎児の異常	講義
	5 回	分娩時の損傷、出血、産科処置・手術	講義
	6 回	帝王切開、急速分娩、異常経過時の看護	講義
	7 回	子宮復古不全、産褥期の発熱	講義
	8 回	異常のある褥婦の看護	講義
	9 回	新生児仮死、分娩外傷	講義
	10 回	低出生体重児、高ビリルビン血症	講義
	11 回	新生児の看護技術：観察法	演習
	12 回	新生児の看護技術：沐浴	演習
	13 回	妊産婦の看護技術：観察法	演習
	14 回	母性看護学実習の実際	演習
	15 回	終講試験、まとめ	

使用テキスト	37 巻　母性看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ 38 巻　母性看護技術　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学[1]母性看護学概論 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[9]女性生殖器 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図　医学書院
評　価　方　法	終講試験 90%・課題レポート 10%
そ　の　他	講義資料の整理は怠らないこと。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
母性援助論Ⅲ	2年次 後期	1単位 15時間	城所　木綿子

科目目的・目標	目的：母性各期における対象を総合的に理解し、その対象がもつ健康課題と看護を学ぶ 目標：母性看護の実践に必要な看護過程が理解できる
授業概要	主に正常な経過をたどる妊婦、褥婦、新生児の看護過程を展開する。ウェルネス看護診断を用いて、対象者を捉えていく。

授業計画

回	内　　容	授業形態
1回	ウェルネス看護診断、アセスメントガイド、事例紹介	講義
2回	妊娠期の情報整理、アセスメント、マタニティ診断	講義
3回	分娩期の情報整理	講義
4回	褥婦、新生児の情報整理	講義
5回	褥婦、新生児のアセスメント、マタニティ診断	講義
6回	褥婦、新生児の看護目標、計画立案、	講義
7回	褥婦、新生児の行動計画、評価の視点	講義
8回	終講試験	試験

使用テキスト	37巻　母性看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ 38巻　母性看護技術　デジタルナーシンググラフィカ
参考書	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程　第3版　医歯薬出版 ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図　医学書院 新看護観察のキーポイントシリーズ　母性Ⅰ、母性Ⅱ　中央法規
評価方法	課題レポート80%、事前学習・技術シート20%
その他	課題ﾚﾎﾟｰﾄは、随時進捗状況確認のため提出あり、計画的に進めること。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
精神援助論Ⅱ	2 年次 前期	1 単位 (30 時間)	大坂則子 松浦彰久

科目目的・目標	目的：精神の健康に影響を及ぼす要因を理解し、精神の健康を維持・増進するための援助、また精神に障がいのある対象への看護を学ぶ。 目標：精神症状が影響した生活障害と看護を理解し、対象を取り巻く社会・生活背景やストレングスに着目した支援を考える。		
授業概要	入院中ならびに地域で生活する精神障害者ならびに家族への看護活動の実際、精神保健医療福祉との連携の必要性と方法を学ぶ。		
授業計画	回	内　　容	授業形態
	1 回	精神障がいの成り立ちと対象理解	講義
	2 回	疾患による生活障害と入院治療の必要性	
	3 回	入院形態と行動制限・権利擁護の実際	
	4 回	入院治療と看護の役割①（薬物療法・精神療法）	
	5 回	入院治療と看護の役割②（電気けいれん療法、作業療法、認知行動療法、SST 他）	
	6 回	統合失調症を持つ対象への看護	
	7 回	気分障害を持つ対象への看護	
	8 回	依存症・人格障害を持つ対象への看護	
	9 回	摂食障害・強迫神経症・パニック障害の看護	
	10 回	認知症を持つ対象への看護	
	11 回	精神における災害看護	
	12 回	社会復帰へ向けての援助①（精神保健福祉士の役割・精神保健医療福祉に関する社会資源の活用と調整）	
	13 回	社会復帰へ向けての援助②（社会資源の活用とケアマネジメント）	
	14 回	社会復帰に向けての援助③（他職種による社会復帰・参加への支援と今後の方向性）	
	15 回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	39 巻　情緒発達と精神看護の基本　デジタルナーシンググラフィカ 40 巻　精神障害と看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ		
参考書	その都度提示		
評価方法	終講試験　100%		

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
精神援助論Ⅲ	2年次 後期	1単位 (15時間)	竹島　裕子

科目目的・目標	目的：精神の健康に影響を及ぼす要因を理解し、精神の健康を維持・増進するための援助、精神に障がいをもつ対象への看護・支援の方法を学ぶ。 目標：精神障がいによる健康や生活への影響や問題を考え、社会資源の活用や対象の持てる力をいかした支援について考える。
授　業　概　要	オレム・アンダーウッドモデルを使用し、統合失調症の事例を通して看護過程を計画立案まで展開する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1回	オレム・アンダーウッドモデル 実習記録用紙提示　　事例提示	講義
	2回	看護過程の展開1　情報分類・分析（用紙1－②） 「全体像」と発達課題	講義 演習
	3回	看護過程の展開2 「6つのセルフケア要件」情報分類・分析①（用紙2－①②）	講義 演習
	4回	看護過程の展開3 「6つのセルフケア要件」情報分類・分析②（用紙2－①②）	講義 演習
	5回	看護過程の展開4　関連図と問題点確認 「関連図」	講義 演習
	6回	看護過程の展開5　関連図と問題点確認 「(長期・短期）目標」、看護計画「具体策」（共通）立案	講義 演習
	7回	看護過程の展開6 実施、評価の書き方	講義 演習
	8回	終講試験・まとめ	

使用テキスト	39巻　情緒発達と精神看護の基本　デジタルナーシンググラフィカ 40巻　精神障害と看護の実践　デジタルナーシンググラフィカ
参　考　書	その都度提示します。
評　価　方　法	試験40%　記録60%
そ　の　他	オレム・アンダーウッドモデルについて、自己学習もして下さい。 個人ワークになりますので、理解を深めながら学習していきましょう。

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
看護管理	3 年次 後期	1 単位 (15 時間)	堀口　公子

実務経験のある教員等による授業科目	埼玉メディカルセンター看護副部長・認定看護管理者。 認定看護管理者としての経験を活かし、多職種及び看護職のマネジメントについて多方面から授業や演習を行う。
科目目的・目標	目的：医療システムにおける看護師の役割とその実践の方法について学ぶ。
授　業　概　要	目標：より良い看護サービスを提供するための看護管理の基礎を学び、望ましい管理の在り方を考える。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	看護管理とは、専門職の役割と機能	講義
	2 回	マネージメントとは	講義
	3 回	看護を取り巻く諸制度、医療制度について	講義
	4 回	看護記録について、安全管理について	講義
	5 回	医療事故、インシデント・アクシデントレポート	講義
	6 回	組織目標達成のマネージメント	講義
	7 回	ストレスマネージメント	講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践①　看護管理　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護学概論　（医学書院）
参　　考　　書	
評　価　方　法	終講試験　100 点満点
そ　　の　　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
看護研究	3 年次 前期	1 単位 (30 時間)	栗城　尚之

科目目的・目標	看護研究への関心と理解を深め、研究への取り組みと成果の活用に必要な基本的知識の習得と研究的態度を養う。具体的には、看護研究の目的と意義、研究課題、研究倫理、研究デザインと研究方法、文献レビュー、論文の構成と書き方などについて学ぶ。また、論理的かつ一貫性を担保したケースレポートを作成する。
授　業　概　要	1. 看護研究の目的と意義が説明できる 2. 研究課題の明確化の重要性が説明できる 3. 研究倫理の重要性について説明できる 4. 研究計画書の作成方法を理解できる 5. 実習における看護実践を振り返り、ケーススタディをまとめる。 6. ケーススタディを発表し、お互いの学びの成果を共有する。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	看護研究とは	講義
	2 回	研究デザイン，研究倫理	講義
	3 回	文献検索と文献クリティーク	講義
	4 回	ケーススタディの実際①（文献検索）	講義・演習
	5 回	ケーススタディとは・研究計画書作成	講義
	6 回	ケーススタディの実際②	演習
	7 回	ケーススタディの実際③	演習
	8 回	ケーススタディの実際④	演習
	9 回	ケーススタディの実際⑤	演習
	10 回	ケーススタディの実際⑥	演習
	11 回	研究成果の発表準備（効果的なプレゼンテーション）	講義
	12 回	ケーススタディの実際⑦	演習
	13 回	ケーススタディの実際⑧	演習
	14 回	ケーススタディ発表・講評	演習
	15 回	ケーススタディ発表・講評・まとめ	演習・講義

使用テキスト	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方.照林社
参　　考　　書	1. JNN スペシャル 94 看護研究の進め方 論文の書き方 第 2 版.医学書院 2. 看護学生のためのケース・スタディ 第 4 版.メヂカルフレンド社 3. 系統看護学講座 別巻 看護研究.医学書院
評　価　方　法	論文・提出物・参加態度・課題
そ　　の　　他	

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
災害・国際看護	3 年次 後期	1 単位 15 時間	吉田　一哉

科目目的・目標	目的：災害看護の役割を理解し、災害救護活動に必要な基礎的知識を身につける 世界の人々の健康問題の状況や多文化社会で看護を実践する上で、必要な知識を学ぶ。 目標：1．災害看護の基礎知識と看護について理解し、看護職の役割について考えることができる。 2．グローバルヘルスの現状と課題、看護の国際協力の実際や日本における多文化共生と看護の役割について考える
授　業　概　要	災害という特殊な状況を理解し、看護師として被災者救護活動に必要な知識と援助方法について基礎的事項を学ぶ。授業を通じ、日常生活においても防災意識の高揚や災害ボランティアへの関心を高める。 また、国際看護活動の意義を理解し、諸外国の医療・看護を、その国の政治経済や文化、価値観を踏まえて考察する必要性を学ぶ。国・地域の歴史・社会システムの変遷と関連から、人々のかかえる健康問題や保健・看護問題の本質を考える姿勢を養う。

授　業　計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	災害医療と災害看護の基礎知識	講義
	2 回	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義
	3 回	災害時の応急手当て	講義
	4 回	災害時の心のケア	講義
	5 回	国際看護の基礎知識	講義
	6 回	多文化看護：事例を通して	講義
	7 回	世界の医療：国際医療協力の現場から	講義
	8 回	終講試験	

使用テキスト	系看　統合分野　看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学
参　考　書	1）柳澤理子：国際看護学　看護の統合と実践　ピラールプレス 2）ナーシンググラフィカ　災害看護　メディカ出版
評　価　方　法	出席状況・授業態度・レポート提出・終講試験
そ　の　他	特になし

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
臨床看護の実践	3 年次 前期	1 単位 (30 時間)	中安ゆかり 山田良子

科目目的 目標	目的：臨床に近い状況下の援助を通して、総合的な判断や対応する力を習得する。 目標： １．主要症状のある患者に安全な援助を行うための判断力を高めることができる。 ２．看護技術を組み合わせて、複数の患者の状態や状況にあった援助ができる。 ３．診療に伴う援助における危険要素を知り、事故防止のための知識・技術が理解できる。
授　業 概　要	チーム医療、他職種との協働、メンバーシップ・リーダーシップ及び、医療安全の基礎的知識を活用しながら看護をマネジメントし、看護実践を統合する。卒業後の看護業務遂行能力をイメージする。

授　業 計　画	回	内　　容	授業形態
	1 回	看護チーム演習（事例提示、援助計画立案）	GW
	2 回	看護チーム演習（　援助計画立案）	GW
	3 回	看護チーム演習（　援助計画のグループ発表）	GW
	4 回	看護チーム演習（　援助計画についての振り返り）	GW
	5 回	看護チーム演習（追加事例あり）	GW
	6 回	看護チーム演習（援助計画に沿った演習）	GW・演習
	7 回	看護チーム演習（援助計画に沿った演習）	GW・演習
	8 回	看護実践演習	GW・演習
	9 回	看護実践演習	GW・演習
	10 回	看護実践演習　振り返り	GW
	11 回	看護実践演習	GW・演習
	12 回	看護実践演習	GW・演習
	13 回	看護実践演習　振り返り	GW
	14 回	臨床看護師に必要な力とは	GW
	15 回	臨床看護師に必要な力とは　　発表	GW

使用テキスト	各科目教科書、看護技術教科書
参　考　書	各領域、看護技術の教科書
評　価　方　法	7 回目終了後　演習評価・グループワーク評価 15 回目終了後　演習評価・グループワーク評価
そ　の　他	演習ではユニフォームとナースシューズを忘れないこと。 事例患者での演習では、事前に十分な学習を行うこと。